

令和3年度 学校評価 目標・改善策 《資料1》

No.	評価項目	R3目標	R3改善策	評価	総合評価 ()は昨年度
1	教科教育 教育課程・学習指導	◎資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びを実現した授業を行う。 ○教科研究の成果を県内外の学校・教育機関に向けて発信する。	【授業改善】(個人としてどうだったか) ■全教職員が「主体的な学び」のプロセスモデルを活かした授業実践を2つ以上の単元で積み重ねる。 *授業を受け持っていない職員は回答しなくて良い(未記入で良い)。	3.6	3.4 (3.2)
			■全教職員が、ICTを活用した授業実践を2つ以上の単元で積み重ねる。 *授業を受け持っていない職員は回答しなくて良い(未記入で良い)。	3.4	
			■全職員が個別最適な学びと、協働的な学びを実現した授業実践に年間を通じて取り組んでいる。 *授業を受け持っていない職員は回答しなくて良い(未記入で良い)。	3.1	
			【成果の発信】(学校としてどうだったか) ■研究推進委員会を中心に、校内研究会の様子をHPを通じて発信する。	3.6	
			■中等教育研究会を通して、教育研究の成果を県内外の学校・教育機関に向けて発信する。	3.5	
			【カリキュラムマネジメント】(学校としてどうだったか) ■全職員で夏休み前までに、SELFを軸とした教科等横断的な教育課程の編成に取り組む。	3.1	
2	道徳教育	◎年間指導計画の見直しを随時行い、計画的に取り組めるようにする。 ○道徳の評価の検討を推進する。	【年間指導計画】(学校としてどうだったか) ■年間指導計画を基に、すべての内容項目が網羅できるよう、道徳部会を中心に通年で計画的に取り組んでいく。	3.3	3.2 (3.7)
			【道徳の評価】(学校としてどうだったか) ■他校の実践を参考にしながら、夏休み中と冬休み後に道徳部会が評価の方法や文例を提案する。	3.2	
3	SELF	◎学年職員によるTT体制、司書との連携など、職員間で協力して授業を進めていく。 ○他教科との教育内容を相互の関係で捉えられるように単元配列表を作成し、教科横断を図る。	【SELFにおける授業の系統性】(学校としてどうだったか) ■各学年のSELF担当を中心に、TTによる指導や司書教諭との連携を通して、各学年で授業計画の確認・修正などを適宜行っていく。	3.8	3.5 (3.6)
			■各学年のSELF担当を中心に、様々な外部機関とも連携を取りながら、資質・能力の育成につながる授業を計画していく。	3.5	
			【教科横断的な教育課程の編成】(学校としてどうだったか) ■身に付けさせたい資質・能力と教科との関連を、各教科の年間指導計画に記述するとともに、教科横断的視点で、関連し合う内容を可視化するための単元配列表を、各学年のSELF担当を中心に作成し、全職員が実践していく。	3.2	
			■各学年のSELF担当を中心に、生徒の授業後の振り返りや成果物を分析し、効果的な指導がなされているかどうかを検証する。	3.3	
4	キャリア教育・特別活動	◎「やまなしキャリア・パスポート」についての共通理解を図る。 ○本校のキャリア教育や指導法について共通理解を図る。	【キャリアパスポート】(学校としてどうだったか) ■各学年のキャリア教育担当を中心に、キャリア・パスポートの効果的な活用方法について見直しを行い、必要な書類とその内容について精選する。	3.2	3.2 (3.1)
			【組織的・系統的なキャリア教育】(学校としてどうだったか) ■年間指導計画を確実に実施し、キャリア教育講演会や若桐講座の実施を継続していく。	3.6	
			■各学年のキャリア教育担当を中心に、保護者などにGoogle Workspace for Educationなどを通して本校のキャリア教育の成果などを知ってもらう機会を作る。	3.0	
5	生徒指導	◎QU, 生活実態把握アンケートを定期的に実施し、結果を分析し、活用するとともに、全職員で情報を共有しながら、指導を適切に行う。 ○公共交通機関のマナー、登下校のマナーなどを徹底し、地域に愛される附中生を目指す。	【QU調査・生活実態把握アンケート】(学校としてどうだったか) ■QUは6月・11月、生活実態把握アンケートは7月・11月・2月に実施し、調査結果をもとに速やかに対応する。	3.7	3.5 (3.5)
			■当月の職員会議をいじめ対策委員会と位置づけ、結果等を全職員で共有するとともに、早期対応に努める。	3.5	
			【マナーの徹底】(学校としてどうだったか) ■電車通学者・バス通学者・自転車通学者・徒歩通学者それぞれに、前期・後期に1回ずつ、学年や学級でマナーに関する指導を行い、生徒の意識改善に努める。	3.2	
6	安全管理 防災・防犯	◎年間の訓練計画を作成し、地震、火災、不審者対応等を想定した避難行動力を養う。 ○安全点検月を設定し、全職員が確実に安全点検を実施する。	【安全計画】(学校としてどうだったか) ■年度の切替前に、主担当は管理職とともに危機管理マニュアルおよび防災安全計画の見直しを行い、年度始めの職員会議で全職員が対応や役割分担を確認する。	3.5	3.3 (3.5)
			【危機管理】(学校としてどうだったか) ■全職員で分担し、定期的に校内施設設備の安全点検を行う。デジタル化を図り、点検結果を全職員が把握できるようにする。	2.7	
			【避難訓練】(学校としてどうだったか) ■事前・事後指導を組み入れた予告なしの避難訓練を後期に実施し、職員・生徒の避難行動力を確認する。また、その結果を次年度に引き継ぐ。	3.7	
7	安全管理 交通指導	◎生徒の交通ルールやマナーに対する規範意識を高める。 ○交通委員会の生徒主体の活動で、課題を解決していくことを目指す。	【情報発信】(学校としてどうだったか) ■新年度始まってすぐ(4月中)に、各学年の現状を踏まえた交通安全指導を交通安全主任と交通安全担当を中心に行う。	3.6	3.6 (3.3)
			【交通委員会の取り組み】(学校としてどうだったか) ■ヘルメット点検の活動を月の始めの日に設定し、生徒の主体的な活動を促す。	3.6	

No.	評価項目	R3目標	R3改善策	評価	総合評価 ()は昨年度
8	特別支援教育	◎特別支援教育に関する知識を得る機会を設ける。 ○ケース会議を行い、全校体制での指導を目指す。	【支援体制の徹底】(学校としてどうだったか) ■より充実した支援体制を構築するために、専門的な知識のある先生による講義を、職員全員による参加のもと実施する。	3.3	3.2 (3.5)
			【ケース会議】(学校としてどうだったか) □ケース会議に専門の先生に入っただき、適切な指導法について情報交換を行う場を設ける。	3.1	
			□ケース会議等で確認された対応の仕方などを、職員会議や生徒指導部会を通じて、全職員で共通理解する。	3.1	
9	教育相談	◎学校内の様々な担当と連絡を取って、情報の共有化を図り、校内が連携した取組を目指す。 ○教育相談の充実に努め、教員間の情報共有を密にしたり、SCと教員間のコンサルテーションの場を設定する。	【情報の共有】(学校としてどうだったか) ■学年間で見取りの仕方や支援の仕方(生徒への声かけや外部機関との連携の仕方)の事例を共有し合う。	3.0	3.1 (3.7)
			【SCとの連携】(学校としてどうだったか) ■相談室の空き時間を利用して、SCとのコンサルテーションができるように、相談の予約状況を職員で共有していく。	3.2	
10	組織運営	○全職員で情報を共有化できるよう、伝達方法の工夫・改善につとめる。 ◎行事の精選に着手するとともに、効果的な組織運営につとめ、特定の職員に負担がかからないようにつとめる。	【情報の共有】(学校としてどうだったか) ■学校運営や学年運営等で「報告、連絡、相談(ほうれんそう)」を日頃から強く意識し、情報の共有を徹底する。	3.2	3.0 (3.2)
			【効果的な組織運営】(学校としてどうだったか) ■担当者全員が分担して取り組めるように、本校の課題に合わせて細分化し、明確化を図った分掌内容を担当者に割り振る。	2.8	
			■行事の精選・縮小については、実施時期や内容・取組方法等を含め、軽減できることを段階的(学年・分掌→企画・運営委員会→職員会議)に模索し、次年度年間行事予定の作成時に合わせて検討する。	3.0	
11	学校評価	○より精度の高い自己評価となるよう、評価の対象の明確化や、評価項目の重点化に努める。	【評価方法の見直し】 ■評価の際、「自分としてどうであったか」、「学校全体としてどうであったか」という2つの視点から自己評価を行い、評価の精度を更に高める。 ■改善策1つ1つについてどうであったかを問い、取り組めたかどうかを可視化できる評価方法とする。 *回答不要だが、本校在籍2年目以上の先生方は、これまでの評価方法と比較し、感想をご記入ください。		項目には入れておくと、自己評価をする対象にはしない。
12	情報化推進	◎ICT端末を活用した教育を積極的に行い、実践を重ねる	【GIGAスクール構想】(学校としてどうだったか) ■各学年の情報担当を中心に、一人一台端末の実現(GIGAスクール構想)に向けての体制作りとより良い運用に向けての検討を行う。	3.6	3.5 *(3.7)
			【ICT活用】(学校としてどうだったか) ■Google Workspace for Educationのシステムを活用した教育実践(学校運営や授業以外の生徒への学習指導・生活指導等)を通年で行う。	3.4	

*No12「情報化推進」は、前年度の自己評価では「情報提供」という名称の評価項目であった。また、ホームページの更新といった情報発信に関する改善策が多かったため、前年度との比較が難しいと判断し、括弧付きでの記載となっている。